トリプタン製剤

慢性の病気では、長く、同じ薬を飲むことが多い。と、「診察はいいから、いつもの薬だけちょうだい」という患者さんも出てくる。

65歳のT子さん。他県から転居。これまで飲んでいたと同じ片頭痛の薬、トリプタン製剤を処方してくれと言う。が、ちょっと待ってください。彼女は、だいぶ前から、血圧が高かったようだ。が、降圧剤をのんでいない。で、頭のMRI（磁気共鳴画像）の検査をしてみると、脳動脈硬化と隠れ脳梗塞が見付かったではないか。ということは、T子さんには、トリプタン製剤は使えないことになる。

なぜなら、トリプタン製剤には、血管収縮作用があるからだ。その作用で、過度の血管拡張による片頭痛の痛みが抑えられる。だが、虚血性心疾患や脳血管障害のようなもともと血流が悪くなっている病気では、さらに血管収縮が起きると致命的だ。だから、T子さんのように、未治療の高血圧と脳血管障害のある患者さんには、トリプタン製剤は禁忌ということになる。

だいたいが、T子さんの頭痛に、本当にトリプタン製剤は必要だろうか？片頭痛は30歳前後をピークに、だんだん減ってくる。頭痛の程度も軽くなってくる。軽い片頭痛なら、普通の鎮痛剤でも効果があるはずだ。

もちろん、高齢だから片頭痛ではないと言わない。ならば、昨年から使えるようになったジタン系の薬はどうか。片頭痛の痛みを抑える作用は十分にあり、血管収縮作用のない薬である。が、T子さんは首を縦に振らない。

しかし、誰だって、年とともに、体も変わる。それに応じて薬も変えなくてどうする。高齢者だけではない。若い人でも、たまの検査で、脳血管障害が見付かることもある。病気にもよるが、「薬だけ欲しい」というのは、ホントはコワイご注文である。

（石黒修三＝いしぐろクリニック・脳神経外科医：7/11北國新聞掲載）